

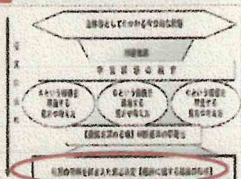
令和4年 岐阜県中学校社会科研究会

夏季ゼミナール 公民的分野

岐阜市立藍川北中学校
瀬口 幹浩

「価値に関する認識を形成する授業」とは？

相互の理解を踏まえた
意志決定

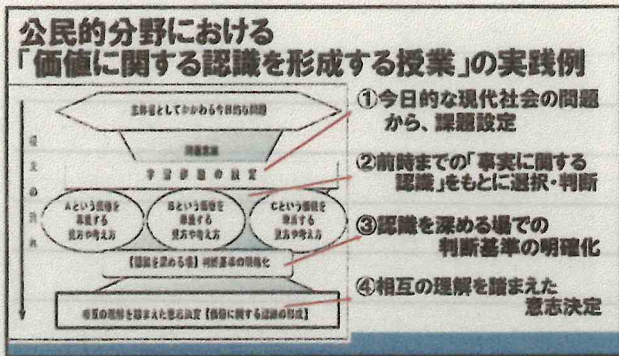


互いの考えを理解した上で、自分がどのような
未来を選択・判断していくとよいか考える

「価値に関する認識を形成する授業」とは？

(互いの考えを理解した上で、)
社会に見られる課題の解決に
向けて選択・判断する授業

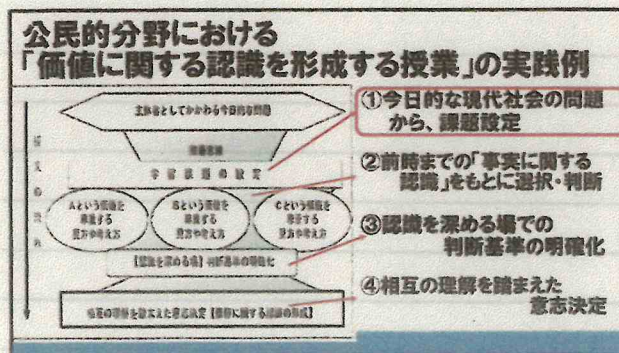
学習指導要領



令和2年公民的分野授業研究委員による実践
(社会科研究 第62号参照)

少子高齢化が進む日本で、外国人労働者(移民)をさらに受け入れるべきかどうか？

①積極的に受け入れるべき ②受け入れざるを得ない
③受け入れは止めていくべき



①今日的な現代社会の問題から、課題設定する

少子高齢化の問題点

外国人労働者の受け入れ

言語や文化の違いによる問題

英・米の移民受け入れに対する政策

AIの発達→人間の仕事減少の可能性

公民的分野における「価値に関する認識を形成する授業」の実践例

①今日的な現代社会の問題から、課題設定

②前時までの「事実に関する認識」をもとに選択・判断

③認識を深める場での判断基準の明確化

④相互の理解を踏まえた意志決定

②前時までの「事実に関する認識」をもとに選択・判断

・発言に根拠がない
・イメージ
感情的な発言

「事実に関する認識」が「価値に関する認識を形成する授業」の土台

②前時までの「事実に関する認識」をもとに選択・判断

前時に、少子高齢化の問題点を「経済」「労働力」「地域格差」で整理
「事実に関する認識」が「価値に関する認識を形成する授業」の土台

3 判断基準を明確にして、①積極的に受け入れるべき②受け入れざるを得ない③受け入れは止めていくべき

①積極的に受け入れるべき	②受け入れざるを得ない	③受け入れは止めていくべき
日本の経済を維持・発展させていくためには、労働力が重要である。人口が減少し、働き手が不足した時に、外国人労働者が日本以外の国に流出しているかもしれないから、 ④少子高齢化社会では、社会保険の増大が生じる。労働者が増加すると、日本の「成長も停滞」も外国人労働者の生活も保証される。	少子高齢化が進む中、外国人労働者の力を借りないと、都市部はよいかもしれないが、地方では消滅してしまったり地域格差が生まれてしまうかもしれない。 ①現在の日本の経済や人々の生活を考えると、人口が減少していく状況は懸念がある。しかし、AIの発達を契機によって、労働力がなくてもよい社会になるかもしれない。将来的には、受け入れを減らすこともできるかもしれない。「未だ未知」	英、米の様子を見ると、移民の受け入れのメリットが大きくなってきている。また、外国人でなく日本の国民の「経済活動」労働の権利を守るべきである。 「移民」 未来ではAIがさらに進化し多くの仕事ができなくなることが予想される。外国人労働者が日本の働き手として必要になる。 ④このままだと、日本の人口減少、少子高齢化の根本的な解決に結びついていない。

「情報化」の授業で獲得した「事実に関する認識」

公民的分野における「価値に関する認識を形成する授業」の実践例

①今日の現代社会の問題から、課題設定
②前時までの「事実に関する認識」をもとに選択・判断
③認識を深める場での判断基準の明確化
④相互の理解を踏まえた意志決定

③認識を深める場での判断基準の明確化

相手の主張点を理解したり、論点を明確にする必要性

判断基準の明確化
(教師のコーディネート)

③認識を深める場での判断基準の明確化 (教師によるコーディネート)

- Aという判断をしたのはなぜ? (判断理由の明確化)
- AとBで判断が分かれているけれど、論点は何かな? (論点の明確化)
- AとBの主張は、分かった? (相互の理解)
- AとBの主張は、それぞれ間違っていないけれど、AとBを比較した上で、どうしてAだと思った? (相互の理解を踏まえた…)

③認識を深める場での判断基準の明確化

例:積極的に受け入れるべき

- ・日本の経済を維持・発展させていくためには、労働力が必要。人口が減少し、働き手が必要になった時に外国人労働者が日本以外の国に流出しているかもしれないから。

→ **日本の経済活動の維持**
- ・少子高齢社会では、社会保障の増大が生じる。労働力が増加すると、日本の税収も増え、外国人労働者の生活も保障されるから。

→ **税収の確保と外国人労働者の利益**

③認識を深める場での判断基準の明確化

例:受け入れを止めるべき

- 英、米の様子を見ると、移民の受け入れのデメリットが大きくなってきている。まず外国人でなく日本の国民の経済活動や労働の権利を守るべきである。
- 未来ではAIがさらに進化し多くの仕事が無くなるのが予想される。外国人労働者が日本の職を奪ってしまう可能性がある。

日本国民の労働の権利の優先

共通点は何かな？

公民的分野における「価値に関する認識を形成する授業」の実践例

- ①今日の現代社会の問題から、課題設定
- ②前時までの「事実に関する認識」をもとに選択・判断
- ③認識を深める場での判断基準の明確化
- ④相互の理解を踏まえた意志決定

④相互の理解を踏まえた意志決定

「相互の理解を踏まえた意志決定」の1つの方法として...

留保条件…折り合いをつけながら自分なりの最適解を導き出すための条件


AorBの2択 「〇〇な条件ならBでもよい」

平行線・合意形成× **対立の解消** **握手**

④相互の理解を踏まえた意志決定

「相互の理解を踏まえた意志決定」の1つの方法として...

留保条件...折り合いをつけながら自分なりの最適解を導き出すための条件



互いの意見を尊重し、どの立場からでも納得できるようにするには、どのような提案を考えていくとよいか？条件も加えながら、考えてみよう。

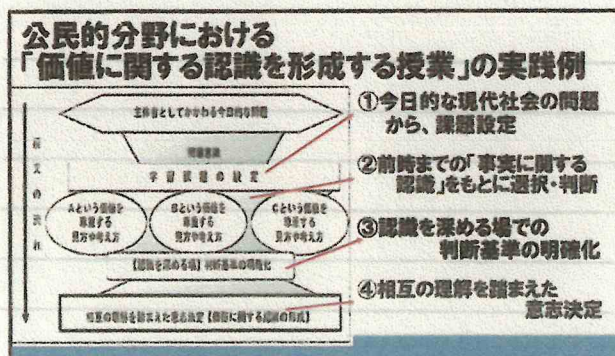
④相互の理解を踏まえた意志決定

・最初、外国人労働者は積極的に受け入れていくべきだと思っていた。ただ、日本国民の労働の権利を優先する考えを聞いて、AIの発達で仕事が無くなり、外国人労働者が日本人の職を奪う可能性があると考え、受け入れを止めるべきだと考えが変わった。

相互の理解を踏まえた意志決定

・今後10年以内に合計特殊出生率が1.8以上に増加したり、AIや高齢者の働き等によって、労働力が確保されるのであれば、受け入れを止めてもよいと思った。

留保条件



教科書内での「価値に関する認識を形成する授業」の題材になりうる内容の一例

- 第3章3節「地方自治と私たち」のまとめとして
自分たちの地域(都市)の現状・課題点を見つけ、どのような政策に力を入れていくべきか考える。(例:福祉?経済?…)
- 日本の社会保障と財政の在り方を考えよう
これからの社会保障の在り方について、最もよいと思うものは?
A 北ヨーロッパのような高福祉高負担(大きな政府)
B 現在の社会保障の水準を維持して、国民の負担を増やす
C 現在の国民の負担の水準を維持して、社会保障をしぼりこむ
D アメリカのような低福祉低負担(小さな政府)

「価値に関する認識を形成する授業」

挑戦 共有



**主体的に社会の形成に
参画する力の育成**
